



しりべし*i*ネットニュース

<http://www.shiribeshi-i.net/>

平成17年3月
しりべしシステム事業運営部会

しりべしシステム事業、次年度も継続！

平成14年度の社会実験から早3年が過ぎました。この間、しりべしiセンターは11の市町村に開設し、後志のほぼ全域にわたり地域情報を発信する体制が整いました。またiネットのアクセス数も50万件を突破するなど、振り返ると平成16年度はしりべしiシステム事業の飛躍の年でした。地域から情報を発信していただいた多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。この勢いをさらに持続的にしていくために、しりべしiシステム事業は平成17年度も発展的に事業を継続していきます。

上昇飛行から水平飛行に向けて

新しい事業を立ち上げるためには、推進力が必要です。飛行機にたとえて言うならば、離陸から上昇するまでが一番のエネルギーを使います。そして、ひとたび一定の高度に達するとそこには上昇気流があって、大きな推進力がなくても自力で飛行機は飛んでいきます。iネットも、これまでの蓄積と多くの関係機関・団体の支援をもらいながらようやく少し水平飛行の可能性が見えてきました。しかし、まだまだ力不足です。ここで失速しないように、平成17年度は次の事業を精力的に進め、iシステム事業の自立化を目指していきたくと考えています。



システムの自立化に向けた独自事業の展開

■しりべしまるごとi辞典の作成

しりべしiネット発足時より懸案であった後志観光情報データベース（しりべしまるごとi辞典）の作成を平成17年度より本格的に始めます。本年度は、まずは宿泊施設の情報データベース化し、それを「しりべしの宿」としてiネット上に掲載します。これとあわせて、長期的な懸案事項であった商業情報サイトについても、今回の宿泊施設データベースの作成にあわせて実験的に開設し、その検証を通じて、しりべしiネットにおける商業情報サイトの可能性及びその望ましい姿を検証します。

■しりべしiネット独自の商品開発事業

後志の魅力づくりの一環として、新たな地域資源の掘り起こしを行い、それに基づき後志ならではの特徴的な地域特産品（しりべしセレクション）の開発を地域の人と一緒に進めていきたいと考えています。これらは、将来的には、しりべしiネットなどを通じてPR、販売していく計画です。

官民連携事業の展開による継続的な公的機関との連携体制の構築

このほか、快適ドライブ環境創出のための官民共同事業については、16年度と同様積極的に推進していきます。なお、17年度は次のような事業を考えています。

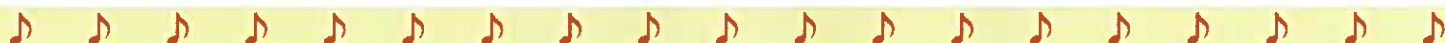
■しりべし地域の観光案内方法に対する地域診断

後志地域の標識診断を開発局・北海道・地域が一緒に行うものです。平成16年度に調査した観光周遊モデルルートのご案内方法、不法看板などの問題箇所を調査し、後志地域独自の案内標識、案内方法を提案します。

■冬季・観光時期における地域が発信する道路情報提供

平成16年度からの継続事業で、行政サイド、民間サイド両方から後志地域の決め細やかな道路情報を発信します。

このほか広報活動・ネットワーク活動として、昨年度と同様「iセンタースタンプラリー」の実施、「しりべし魅力展」の開催、広報誌「ジュジュ」の発行、iセンタースタッフ講習会などの開催を計画しています。





しりべし魅力展開催

平成16年10月2日(土)～10月3日(日)の2日間にわたり、小樽観光物産プラザ(通称:運河プラザ)で「しりべし魅力展」が開催されました。この魅力展は、後志の食・文化などの多彩な魅力や本年度のiシステム事業について、多くの観光客の方々に体験していただくよう開催したものです。当日は、この季節にしてはちょっと肌寒く、一時雨が降るなどあいにくの空模様でしたが、延べ4,000人と多くのお客様にお越しいただきました。

1 Program

しりべし特産市～しりべしの魅力「食」の発信

魅力展会場となった運河プラザ前広場では、管内の新鮮な山海の幸や特産品をPRしようと「しりべし特産市」を開催しました。

積丹沖でとれた魚介類を贅沢に使った「浜なべ(積丹町)」、9月の台風18号にも負けずに育った「ぶどう(余市町)」、厳選した近海ものの素材(すけそ、たら)を今話題の日本海岩内海洋深層水で練り上げた「揚げかまぼこ(岩内町)」などなど、全部で12の団体にご協力いただき、しりべしの旬の味覚をお手ごろ価格で味わっていただきました。

2 Program

うしお太鼓・ミニコンサート・パネル展～しりべしの魅力「文化」の発信

後志ならではの文化の発信として、小樽の伝統芸能「うしお太鼓」、後志にゆかりのある方々によるミニコンサート、管内で撮影された映画のロケ現場・撮影写真のパネル展、「冬のニセコ」を舞台としたショートフィルム「HIKARI」の上映などを開催し、多くの観光客の方々に、その魅力に触れていただきました。

3 Program

しりべしiネット体験コーナー・しりべしラウンジ～しりべしを彩る旬の情報発信

運河プラザ内の1番庫や中庭では、しりべしiネットや16年度のしりべしiシステム事業を多くの観光客の方々に知っていただくために、「しりべしiネット体験コーナー」と「しりべしラウンジ」を開設しました。

iネット体験コーナーでは、しりべしiネットに実際に触れていただくよう「しりべしiネットクイズ」を開催。管内各地の旬の情報が見られる「地域だより」や「天気予報」、ドライブに便利な「後志道ナビ」など、iネットの便利な機能(ページ)についてのクイズを出題し、観光客の方々にiネットを体験していただきました。

また、9月の台風18号の被災状況を知っていただくよう、神恵内村で撮影されたホームビデオを放映。後志の自然のあまりの厳しさに、驚いた観光客の方もいました。

しりべしラウンジでは、「こだわりの郷"しりべし"いらっしやいませキャンペーン」のPRをはじめ、iシステム事業の柱である「オススメ観光ルート」などのアンケート調査を実施。多くの観光客の方々にご協力いただきました。

しりべしエイド(しりべしiネットによる被災地支援)

台風18号で被災した地域を元気付けようと、しりべしiシステム事業運営部会では、「しりべしエイド(しりべしiネットによる被災地支援のモデル事業)」を実施しました。

しりべしiネットによる被災情報の発信とともに、神恵内だよりに掲載の「海に見える風景」の写真を中心に絵葉書を1000部製作。10月に開催された「しりべし魅力展」などで800部を販売しました。

売り上げの24万円全額と200部の絵葉書は、平成16年12月6日、小川原部会長らが神恵内村を訪れ、義援金として寄贈しました。

北海道新聞 小樽・後志版(平成16年12月8日)

絵はがき収益 台風義援金に

神恵内村へ24万円寄付
iシステム部会

【神恵内】台風18号でしているシリーズ「海の被災した村を元気づけよう 早える風景」や、「小樽うと六日、神恵内村を中雪あかりの陸」など九枚心とした風景写真の絵はがき約24万部、千部印刷。10月に小樽運河プラザで開催された「しりべし魅力展」などで800部販売した。絵はがきは、後志管内の各市町村の情報を伝えるホームページ「しりべしiネット」を通じて「しりべしiシステム事業運営部会」(小川原部会長)が制作した。村をめぐって後志の代表的な職員の稲垣剛さんが撮影してiネットに掲載すると話していた。



後志の出来事

第2回 i センター交流会開催

i センタースタッフを中心とする関係者間の交流・連携を図り、16年度のしりべし i システム事業とともに今後の案内機能の充実に資することを目的とする第2回 i センター交流会が、平成16年11月15日～16日の2日間にわたり、倶知安町で開催されました。

今回の交流会では、全11 i センターのスタッフに寿都町さんと神恵内村さんを加えた計44名が参加。「現場の課題をみんなで解決しよう」をテーマに、現地視察(倶知安 i センター)、講習会、意見交換会の大きく3つのプログラムを実施しました。

1 Program

現地視察

集合場所の「倶知安 i センター」に集まった参加者らは、案内スタッフの小笠原さんから、i センターでの概要とともに、ここでの案内業務についての説明を受けました。

2 Program

講習会

●第1部: i センター独自事業企画会議(15日 13:30～)

現地視察の後、ニセコレルヒホテルに会場を移した講習会では、第1部として i センター独自事業企画会議を開催。A～Cの3つのグループに分かれた参加者らは、各 i センターの抱える問題点を出し合いながら、それぞれの解決方向について意見交換を行いました。また、あげられた問題点を踏まえ、これから取り組むべき i センター独自事業について検討し、「i センター入館記念切符」「しりべし・まるごと辞典」など、面白いアイデアが提案されました。

●第2部: ジュジュ冬号企画会議(16日 9:00～)

2日目の第2部では、ジュジュ冬号企画会議を開催しました。はじめに、製作担当の渡辺さんから、これまでのジュジュの概要について説明を受けました。会議では、冬期間にジュジュを利用するお客様の立場にたった企画内容が必要との視点から、冬の道路情報や飲食店情報などを盛り込んだ方がよいのでは、といったアイデアが出され、地域ならではの“あったかい食べ物”を特集したジュジュ冬号が発行されました。

3 Program

意見交換会

当初、2日目の13:00からはオーストラリア人観光客で注目されているひらふ地区の現地視察を行う予定でしたが、当日は朝からの降雪のため予定を変更し、意見交換会のみを開催しました。

意見交換会では、ひらふ地区の外国人観光客増加のキーマンであるベン・カーさんを講師に、ひらふ地区の魅力や、これから の外国人観光客の受入れに必要なものについて話題提供していただきました。

第3回 i ネット交流会開催

16年度事業の締めくくりとなる第3回 i ネット交流会が平成17年度3月31日、倶知安町にて開催されました。

第1部では、産業観光など日本のニュー・ツーリズムの旗手、須田寛氏をお招きした基調講演を開催。会場は、約170人ももの聴衆で埋め尽くされ、須田氏の鋭い洞察力のお話に皆釘付けでした。

基調講演に続く第2部では、後志を快適に旅していただきたいという思いを込めて地域ならではの観光情報や道路情報などを発信・共有する「しりべし i ネット」と、地域の魅力を道でつなぎながら心に響く沿道景観を支える「シーニックパイウェイ北海道・支笏湖洞爺ニセコルート」の関係者をパネラーに、2つの取り組みの共通のキーワードである、官民連携による観光振興とまちづくりについてのパネルディスカッションを開催。同じ後志地域で、後志を光り輝かせようと頑張る地域人同士が出会い、本当の意味でのネットワークづくりの契機になった「しりべし i システム交流会」となりました。



▶ 16年度実験結果

平成16年7月10日に始まったしりべしiシステム事業は、文字通り、これまでの“実験”から後志独自の“事業”として推進してきました。簡単ですが、ここでその結果をご報告します。

■しりべしiネット50万アクセス突破

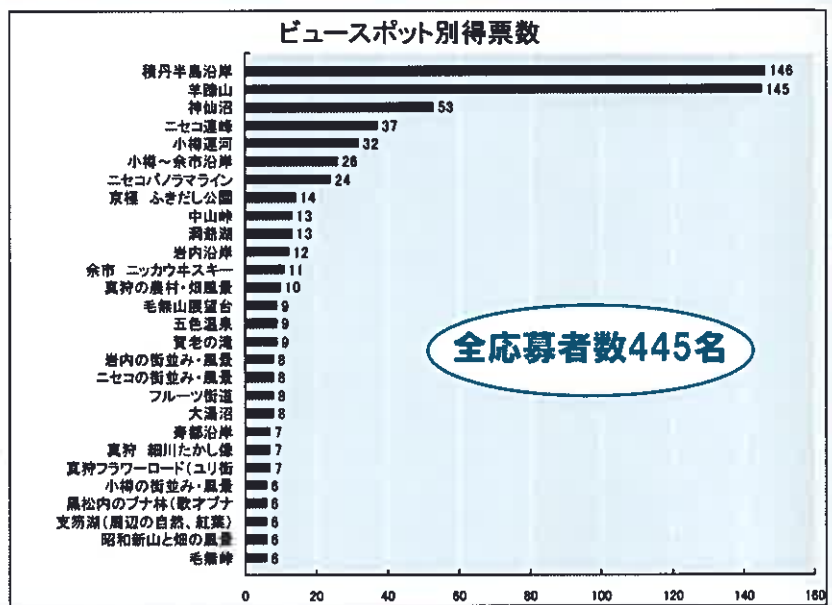
平成15年7月20日に稼動した“しりべしiネット”。15年度末のアクセス数は約18万7千でしたが、平成16年1月には50万アクセスを突破。3月14日現在で約54万7千件、年間36万件ものアクセスを得ています。月平均アクセス数は、皆さんからの旬のHOTな情報発信により、昨年度の2万3千から3万2千件へと9千件ほど伸びています。特に7～9月のオンシーズンの伸びが大きいようです。目指せ年間50万アクセス。これからも頑張ります。



■利用者参加によるモデルルートづくり実験～あなたのイチオシ後志の観光ルート大募集！！

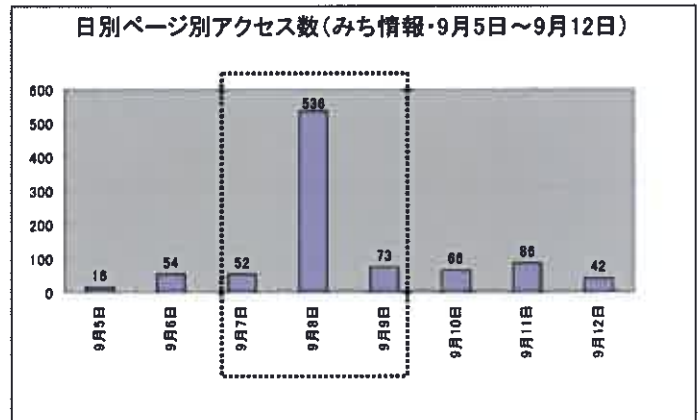
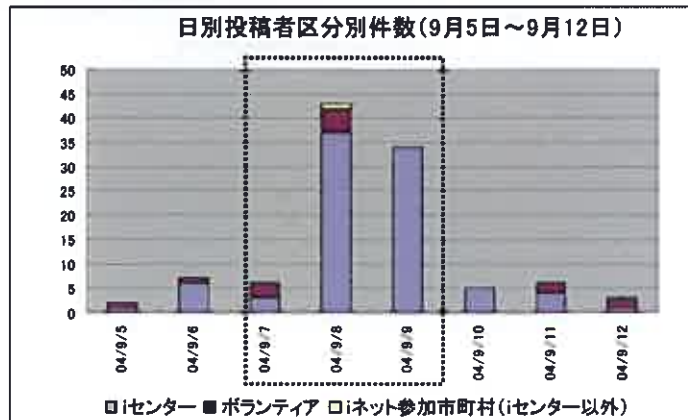
これまでの地域や観光関係者からのモデルルートの提案ではなく、実際に後志を旅行した観光客と地域住民が協働で、新しいモデルルートづくりを進めようと実施したモデルルートづくり実験では、総勢445名もの観光客の方から応募がありました。

観光客から寄せられた観光ルートについては、その要素としての「ビュースポット」「食事スポット」「休憩スポット」「その他の魅力スポット」を集計するとともに、区間別にどのようなところに人気集中しているのかを集計、分析しました。この調査で、これまで漠然ととらえていた観光客の動きがかなり鮮明になり、今後の観光利用促進の貴重な資料になるものと思われま



■官民一体となった地域によるきめ細やかな道路情報提供実験

15年度の冬道実験を夏も秋も含め通年で実施した今年度の道路情報提供実験では、11のiセンターと管内20市町村、そして各地域の通信員の方から、きめ細やかな道路情報が数多く発信されました。特に今回は地域通信員から積極的な投稿もあり、地域からの情報提供の大きな可能性を感じました。また、今年度は9月7日～8日にかけて強烈な台風に見舞われ、この日は地域からの投稿も道路情報に対する一般からのアクセスも大きく増加し、災害時におけるiネットの役割があらためて確認できました。



しりべしiシステム事業運営部会

事務局：後志観光連盟

北海道後志支庁商工労働観光課内

連絡先：0136-22-1111 (内線2428)